■ 河合塾テキスト「地理総合，地理探究（共通テスト対応）〈2026 基礎シリーズ〉」演習問題 解説 ■

【第10講】

解答番号	正解	解　説	重要度
1	④	まず，設問にある「条件」の文章中の「距離当たりの輸送費について，原料は製品の２倍の費用がかかる」という部分に注目する。そして，このことを仮想の地域に模式図として描いたものが図**2**である。原料産地からの原料の輸送費，および市場までの製品の輸送費が等値線で描かれており，図**2**から原料の輸送費と製品の輸送費の合計（総輸送費）が最小となる地点をさがせばよい。なお，ここでの市場とは製品が販売・消費される場所である。① 市場に工場を建設する場合にあたり，原料産地から市場に立地する工場までの原料の輸送費４万円のみで，製品の輸送費はかからず，総輸送費は４万円となる。② 原料産地と市場を結ぶ直線上に工場を建設する場合にあたり，原料産地から工場までの原料の輸送費２万円と，工場から市場までの製品の輸送費１万円で，総輸送費は３万円となる。③ 原料産地と市場を結ぶ直線上以外に工場を建設する場合にあたり，原料産地から工場までの原料の輸送費３万円と，工場から市場までの製品の輸送費２万円で，総輸送費は５万円となる。④ 原料産地に工場を建設する場合にあたり，原料の輸送費はかからず，原料産地に立地する工場から市場までの製品の輸送費２万円のみで，総輸送費は２万円であり，この場合が最小となる。	★★★
2	⑤	前提として，鉄鋼業は原料指向型工業であり，製鉄所は石炭や鉄鉱石など原料の得られる場所に立地する。それは，重量減損型（原料重量＞製品重量）工業であるため，消費市場に製鉄所を立地させると重い原料を運ぶのに輸送費がかかるのに対して，原料産地に製鉄所を立地させれば軽い製品を運ぶことになり輸送費が軽減されるからである。そして，設問文に「輸送費の観点から」とあるため，各年代において輸送費が最も小さくなる立地を最重要条件としてを考える。まず，1900 年前後の原料使用量は，表に示された 1901 年の数値より，石炭＞鉄鉱石と読み取れる。もし，使用量の少ない鉄鉱石産地に製鉄所を立地させ，使用量の多い石炭を運べば輸送費は大きくなってしまう。逆に，使用量の多い石炭産地に製鉄所を立地させ，使用量の少ない鉄鉱石を運べば輸送費は最小限に抑えることができる。よって，石炭産出地付近に製鉄所が立地している**ウ**に該当する。次に，1960 年前後の原料使用量は，表に示された 1960 年の数値より，石炭＜鉄鉱石と読み取れる。1900 年前後とは反対の条件であり，使用量の多い鉄鉱石産地に製鉄所を立地させれば，輸送費は最小限に抑えることができる。よって，多くの製鉄所が，石炭産出地付近から鉄鉱石産地付近に移動したとみられる**ア**に該当する。そして，2000 年前後については，図**1**の条件に「1970 年代以降，坑道掘りは産出量が減少する一方，露天掘りは産出量が増加して，図中の南東側の国が資源輸出国になった」とあることや，鉄鋼生産国の国内にある小規模で採掘効率のわるい坑道掘り鉱山よりも，資源輸出国の大規模で採掘効率のよい露天掘り鉱山の原料を輸入して使用したほうが生産費を抑えられることから，輸入原料の依存度が高まったと考えられる。よって，多くの製鉄所が，国内の鉄鉱石産地付近から原料輸入に便利で輸送費を抑えられる貿易港をもつ都市付近に移動したとみられる**イ**に該当する。	★★★

3	③	設問文に，「主な原料が同じであっても製品の性質によって工場の立地パターンが異なる」とあることから，「製品の性質」を重視すること，また，脚注に「原料は生乳のほか」とあることから，飲用牛乳，バター，アイスクリームのいずれも，おもな原料は「生乳」であるということ，さらに，工業立地にはさまざまな要因が影響するが，表２の東日本３地域は，北海道は原料産地の，関東は消費市場の，東北はこれらの中間の性格をもつ地域という前提で考えてゆく。**サ**：製品に比べて原料の重量が大きい（重量減損型工業）場合や，原料の輸送条件に何らかの制約がある場合などには，原料の輸送費が多くかかるため，工場は原料産地に立地する傾向が強くなる。バターは，原料である生乳からクリームを分離してこれを攪拌し練り固めたものであり，製品のバターに比べて原料の生乳は重量が大きいため，工場は原料産地に立地する傾向が強く，北海道で工場数が多いＫと考えられる。**シ**：原料と製品の重量がほとんど変化しない場合や，輸送条件が同じである場合などには，原料と製品の輸送費がほとんど変化しないため，工場は原料産地と消費市場の間のどこにでも立地する。飲用牛乳は，原料の生乳と製品の飲用牛乳とで重量がほとんど変化せず，また，ともに 10 ℃以下での冷蔵状態で輸送・保管しなければならないという制約条件も同じであるため，工場は原料産地と消費市場の間のどこにでも立地し，北海道，東北，関東のいずれの地域にも工場が分散しているＪと考えられる。**ス**：原料に比べて製品の重量が大きい（重量増加型工業）場合や，製品の輸送条件に何らかの制約がある場合などには，製品の輸送費が多くかかるため，工場は消費市場に立地する傾向が強くなる。アイスクリームは，製品を冷凍状態で輸送・保管しなければならないという制約があり，しかも，一般の冷凍食品は－ 18 ℃以下であるのに対し，アイスクリームは－ 30 ℃以下での温度管理が必要で，冷凍装置や定温での輸送にコストがかかるため，工場は消費市場に立地する傾向が強い。また，原料と製品の重量がほとんど変化せず，設問文の脚注にあるように，原料の種類が多い場合には，それぞれの原料を消費市場まで輸送し消費市場の工場で製品に加工したほうが全体の輸送費は安くなる。したがって，関東で工場数が多いＬと考えられる。	★★★
4	④	**カ**：労働力指向型。文章中に「東京圏に比べて人件費が安価」とあることから，立地は労働力指向型の傾向にあることがわかる。**キ**：生産費に占める輸送費の割合が小さい。半導体は小型・軽量で付加価値の高い製品であり，大きさのわりに価格が高いという特徴をもつ。そのため，輸送費の高い航空機を利用しても，生産費全体に占める輸送費の割合が小さく，最終的な製品価格には大きく影響しない。	★
5	②	製造業の雇用者１人あたりの工業付加価値額は，資本や技術をもつ先進国で大きくなる。GDP（国内総生産）に占める鉱工業の割合は，先進国より新興工業国で大きくなる。先進国では産業の中心が商業・サービス業などの第３次産業に移行していることに注意する。①：スイス。医薬品や精密機械など付加価値の高い製造業が発達するため，製造業の雇用者１人あたりの工業付加価値額が最も大きい。②：韓国。残る３か国の中では，自国資本の自動車や電子部品など付加価値の高い製造業が発達するため，製造業の雇用者１人あたりの工業付加価値額が大きい。③：中国。④：メキシコ。両国ともに発展途上国であり，製造業の雇用者１人あたりの工業付加価値額は小さいが，中国は「世界の工場」ともよばれ，GDP に占める鉱工業の割合が最も大きい。	★★

6	④	④：正文。コンテンツ産業は，音声や映像を用いて，アニメーション，ゲームソフト，映画，音楽などを制作するもので，日本では国際競争力の高い産業として成長している。①：誤文。工業化が遅れており，沿岸部に重化学工業のコンビナートが発達しているとはいえない。②：誤文。輸出加工区は，発展途上国が先進国から企業を誘致するために設置し，当該国の安価な労働力を利用した労働集約型工業が立地することが多い。ベンチャービジネスは，優秀な人材が必要なため，おもに先進国でみられるビジネス形態である。③：誤文。発展途上国の工業化は一般に，国内市場向けの輸入代替型工業化から，輸出を目的とした輸出指向型工業化へと移行する。	★★
7	②	A：イギリス。B：韓国。2020 年において，イギリスは粗鋼生産量，造船竣工量とも日本を上回らない。一方，韓国は粗鋼生産量では日本を上回らないが，造船竣工量では日本を上回る。したがって，Aがイギリス，Bが韓国と判断できる。**カ**：1970 年。**キ**：2020 年。イギリスは先進国であるため，日本と同様に脱工業化とサービス経済化が進行し，新しい年次になれるにつれて両生産量ともに世界に占める割合は減少傾向となる。**サ**：2020 年。**シ**：1970 年。韓国は 1970 年代以降に急速に工業化した新興国であるため，新しい年次になれるにつれて両生産量ともに世界に占める割合は増加傾向となるが，2000 年代に入ると中国などの生産量の増加が著しくなったため，世界に占める割合はやや低下している。☆統計は講義プリント掲載の最新のもので再確認しておくこと。	★★
8	②	**ア**：共通する。図 1 より，アメリカ合衆国，ドイツ，フランスなど欧米の先進工業国は，日本と同様に，2019 年には 2000 年と比べて国内生産台数が減少していることがよみ取れる。**イ**：B。記事Aは，1980 年代以降に激化した日本とアメリカ合衆国との貿易摩擦による日本の自動車メーカの現地生産についての内容で，1992 年のものである。記事Bは，2000 年以降に日本が締結を活発化させた FTA（自由貿易協定）や EPA（経済連携協定）による日本の自動車メーカの現地生産についての内容で，2005 年のものである。	★★
9	③	③：誤り。所得水準が高いにもかかわらず受取額が少ない国は，経済規模の小さい国，または製造業以外の金融業や観光業などが産業の中心となっている国と考えられ，経済連携協定の締結とはあまり関係しない。①：正しい。所得水準が相対的に低い発展途上国では，先進工業国に特許使用料を支払い，工業生産を行うことが多いため，受取額よりも支払額のほうが多い。②：正しい。所得水準が相対的に高い先進工業国間では，とくに知識集約型産業において知的財産権の相互取引も多いため，受取額と支払額ともに多い国もある。④：正しい。会話文中に「特許などは，企業が外国の生産拠点で使った際にも支払いが必要」とあるため，多国籍企業が増加して，外国での生産拠点も増加すると，進出先の国から多国籍企業の拠点が多くある所得水準が高い先進工業国への支払いが増え，所得水準が高い先進工業国の受取額が多くなる。	★★
10	③	③：誤り。アメリカ合衆国のシリコンヴァレーでのベンチャービジネスは，おもに高度な技術や知識による新製品の開発や企画などを行っており，規格品の大量生産部門は，生産コストの安い発展途上地域などに立地する。①：正しい。産学協同による研究開発は，優れた人材の育成や確保などに役立つ。②：正しい。図からもよみ取れるように，工業地域にコンピュータソフト関連業，コンピュータ機器関連業などが集積して立地しており，研究やビジネスに関連する情報交換などを頻繁に接触して行える環境であるといえる。④：正しい。シリコンヴァレーは，北緯 37 度付近のサンベルトに立地している。	★★